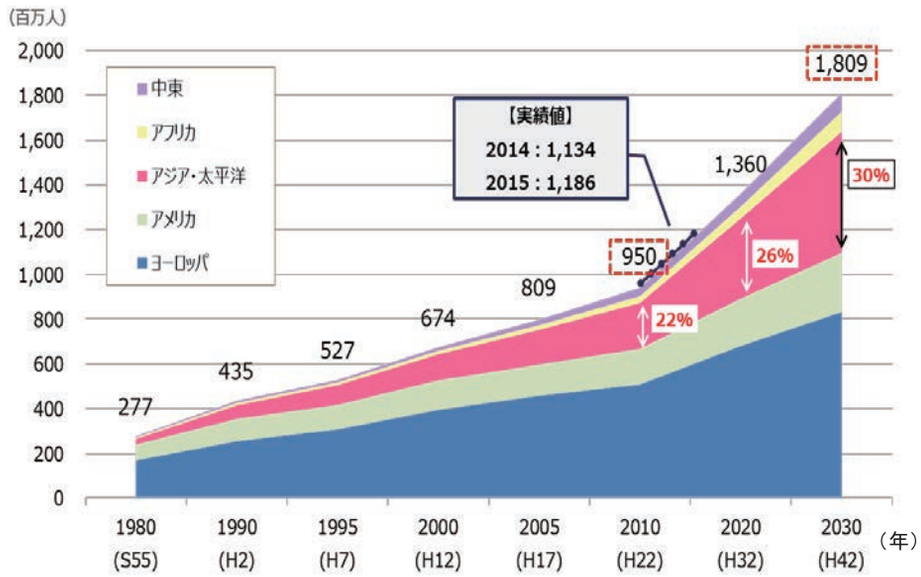
2　観光を巡る現状

（1）世界の旅行者数の推移

世界観光機関（ＵＮＷＴＯ）によれば、全世界の旅行者数は増加傾向が続いており、2015 年には約 11.9 億人に達している。こうした傾向は今後も長期に渡って継続することが見込まれており、2020 年には約 13.6 億人、2030 年には約 18.1 億人まで増加することが予測されている。

このうち、特に増加する割合が高いのはアジア・太平洋地域で、全体の旅行者に占める割合は 2010 年の 22%から 2030 年には 30%まで拡大することが見込まれている。

＜世界の旅行者数の趨勢（今後の予測）＞



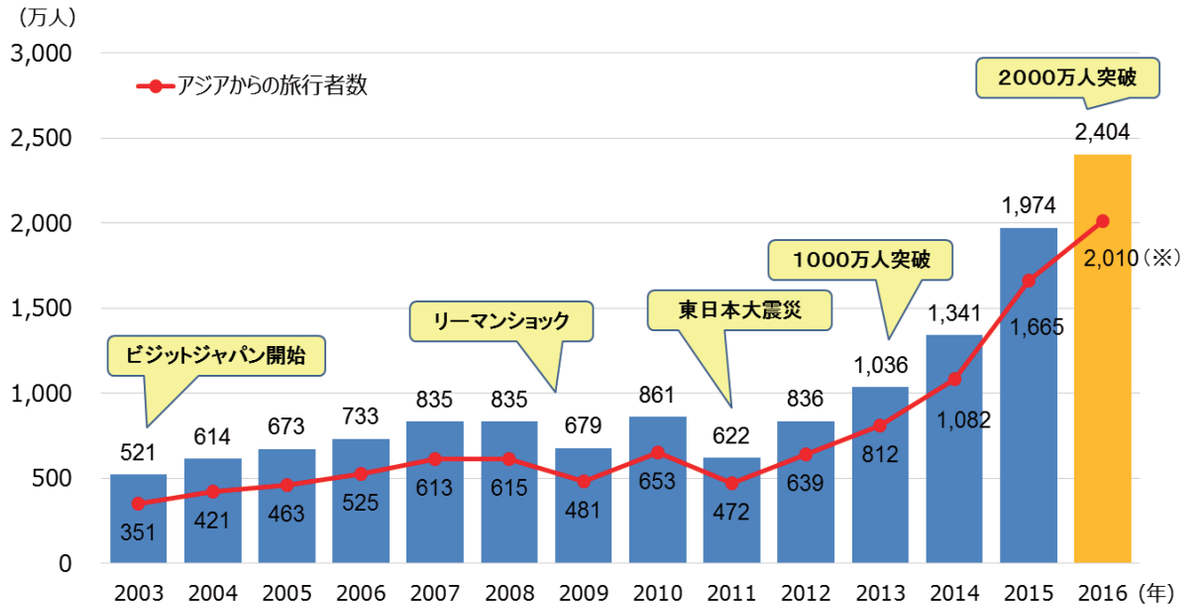
出典：「Tourism Highlights 2016 Edition」（世界観光機関（UNWTO））

（2）外国人旅行者数の急増

日本を訪れる外国人旅行者は、2003 年に政府がビジット・ジャパン・キャンペーンの取組を開始して以来、一時的な落ち込みはあるものの、右肩上がりで伸びており、この 10 年間で約 3.3 倍に増加している。2016 年の外国人旅行者数は、過去最高の約 2,404 万人に達しており、その旅行者数の内訳を見ると、アジアからの旅行者が約 2,010 万人（※）と全体の約 84%を占めており、特に東アジアの一定の国や地域に大きく依存していることがわかる。

（※）アジアからの旅行者数は、東アジア、東南アジア、インドのみの計

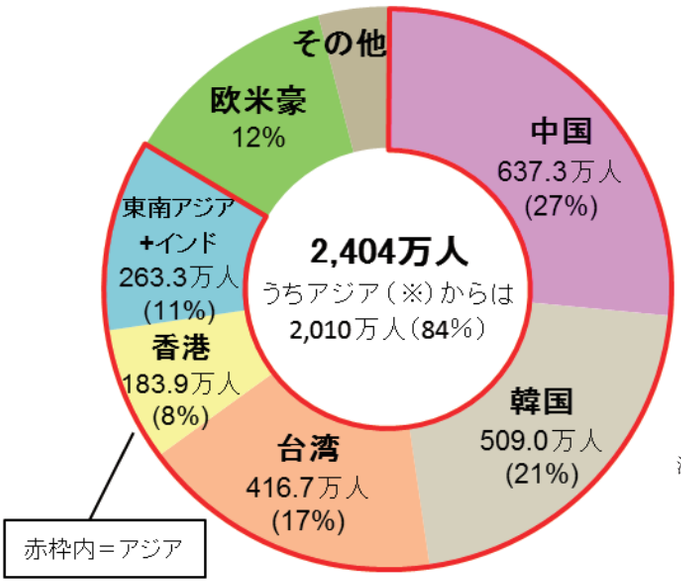
＜訪日外国人旅行者数の推移＞



注：（※）2016 年のアジアからの旅行者数は、東アジア、東南アジア、インドのみの計で推計値

出典：日本政府観光局（JNTO）

＜訪日外国人旅行者数の内訳（2016 年）＞



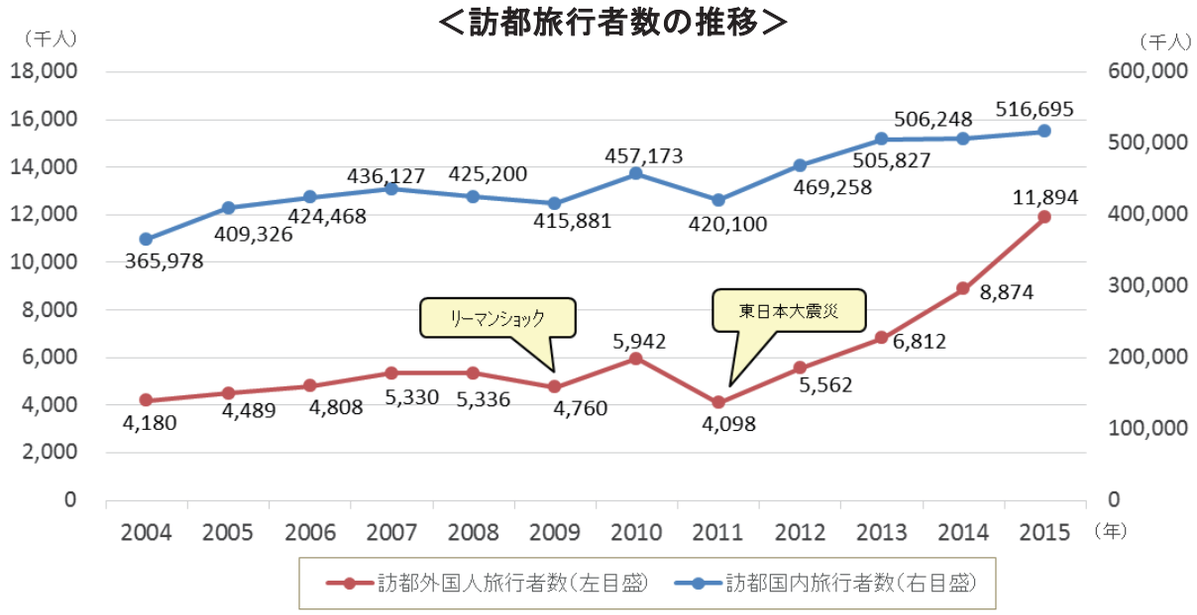
注：（※）アジアからの旅行者数は、東アジア、東南アジア、インドのみの計（平成 29 年 1 月 17 日発表数値）

出典：日本政府観光局（JNTO）

こうした中、東京を訪れる外国人旅行者数もこの 10 年間で約 2.6 倍に増加している。2015 年の旅行者数は過去最高の約 1,189 万人に達し、年間で初めて 1,000 万人を突破することとなった。

また、訪都旅行者全体の約 98%（2015 年）を占める国内旅行者数についても、増加傾向にあり、2015 年は約５億 1,670 万人に達し、過去最高を記録している。

この結果、平成 25 年５月に策定した「東京都観光産業振興プラン」で定めた目標である訪都外国人旅行者数 1,000 万人、訪都国内旅行者数５．１億人を２年前倒しで達成することとなった。



出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

（３）旅行による消費の増大

旅行に伴う国内の消費については、その約９割を占めるのは日本人旅行者によるもので、2010 年以降は減少傾向が続いていたが、2015 年は増加に転じ、震災前に近い約 20 兆 4,000 億円となっている。

一方、訪日外国人の消費動向を見ると、旅行者数の増加に伴い、その消費額も近年急増しており、2015 年には３兆円を突破し、2016 年も過去最高を更新したが、同年に入ってから一頃の勢いに落ち着きが見られ、７－９月期の消費額は前年同期比で約３％減少することとなった。

訪日外国人旅行者１人当たりの旅行時の消費については、買物で多額の消費を行う中国からの旅行者が増えたこと等により、これまで増加傾向が続いていたが、2015 年の 10-12 期から減少傾向に転じている。

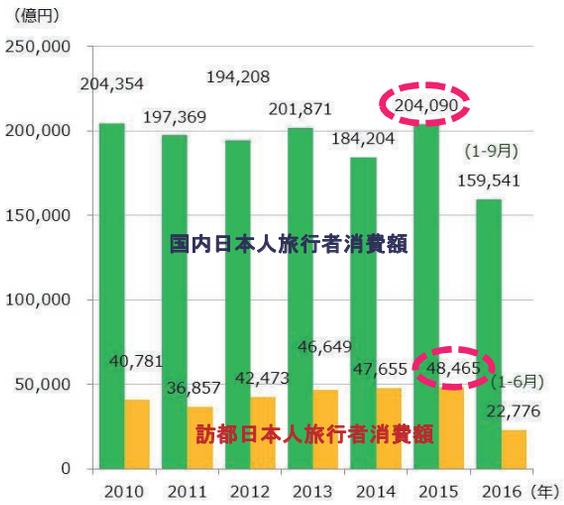
東京を訪れる国内からの旅行者による消費額は、2015 年には過去最高

の約 4 兆 8,500 億円に達している。

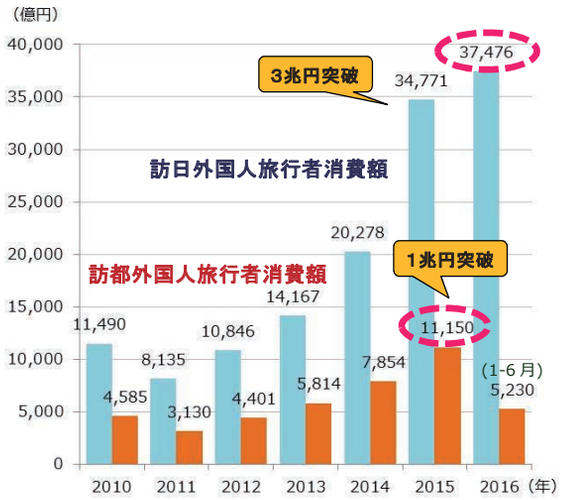
また、訪都外国人旅行者の消費額も 2011 年以降は増加が続いており、2015 年は初めて 1 兆円を突破することとなった。

さらに、訪都外国人旅行者 1 人当たりの旅行時の消費についても、2015 年には過去最高を記録しているものの、訪日外国人旅行者による消費額と同様に、2015 年の 10-12 期から減少傾向に転じている。

＜日本人旅行者の消費額＞

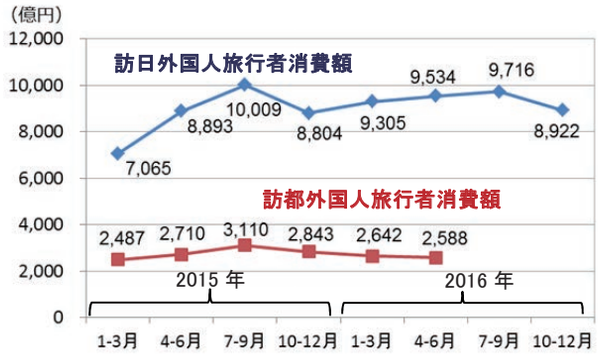


＜外国人旅行者の消費額＞

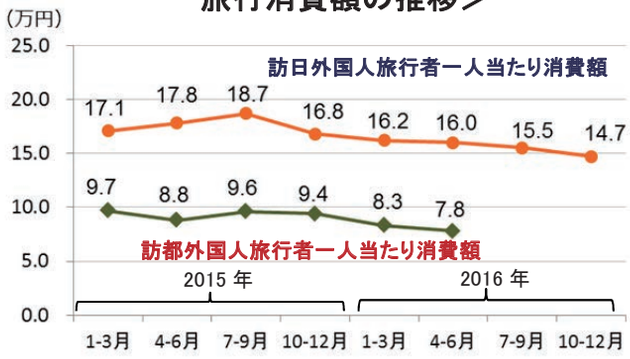


出典:「訪日外国人消費動向調査」「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)、「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

＜外国人旅行消費額の推移＞



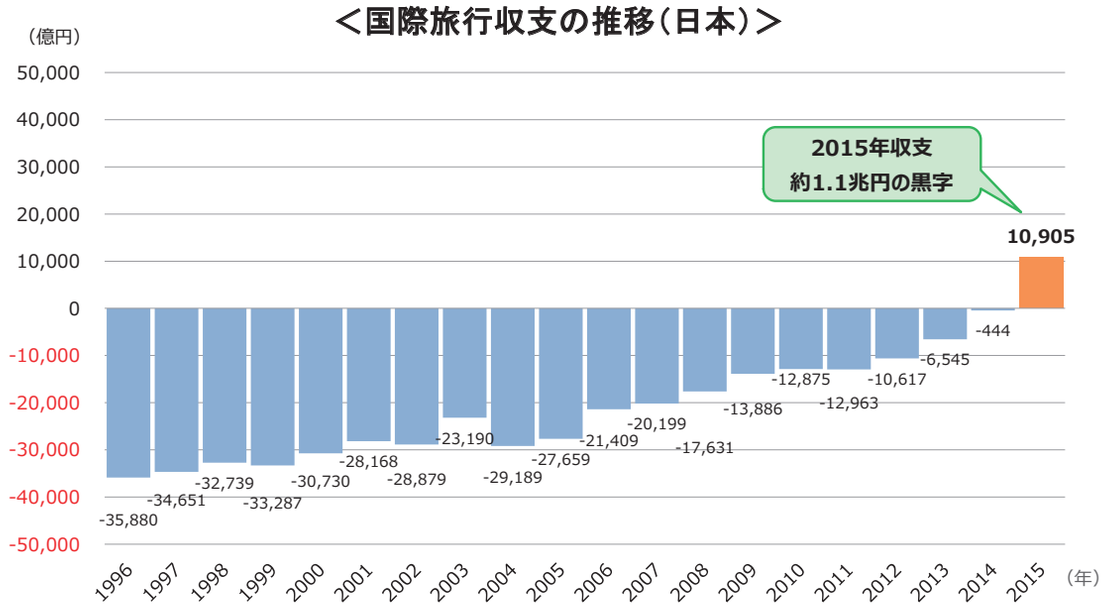
＜外国人一人当たりの旅行消費額の推移＞



出典:「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)、「東京都観光客数等実態調査」(東京都)
※ 2016 年 7-9 月期以降の訪都関係の消費額は公表されていないため未掲載

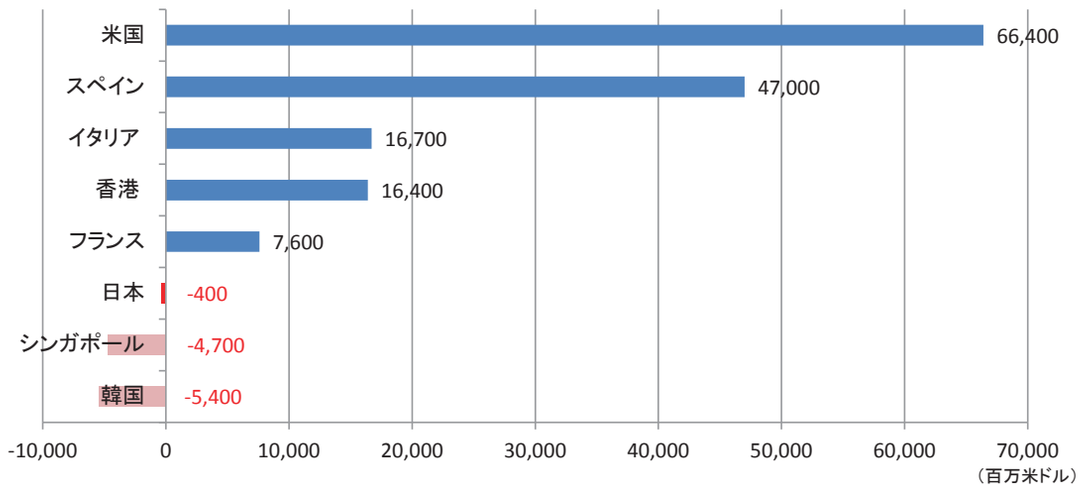
また、我が国において国際旅行収支の不均衡は長年の課題で、恒常的に赤字が続いていたが、訪日外国人旅行者数の増加に伴い、2015 年の国際旅行収支は約 1 兆 1,000 億円の黒字となり、暦年での黒字は 1962 年以来、53 年ぶりとなった。2015 年の外国人旅行者による消費額のうち、訪都外国人の消費額は全体の約 3 割を占めているので、訪都外国人による消費の拡大は国際旅行収支の改善に寄与している。

＜国際旅行収支の推移（日本）＞



出典：「国際収支統計」（財務省）

＜世界の国際旅行収支の状況（2014 年）＞



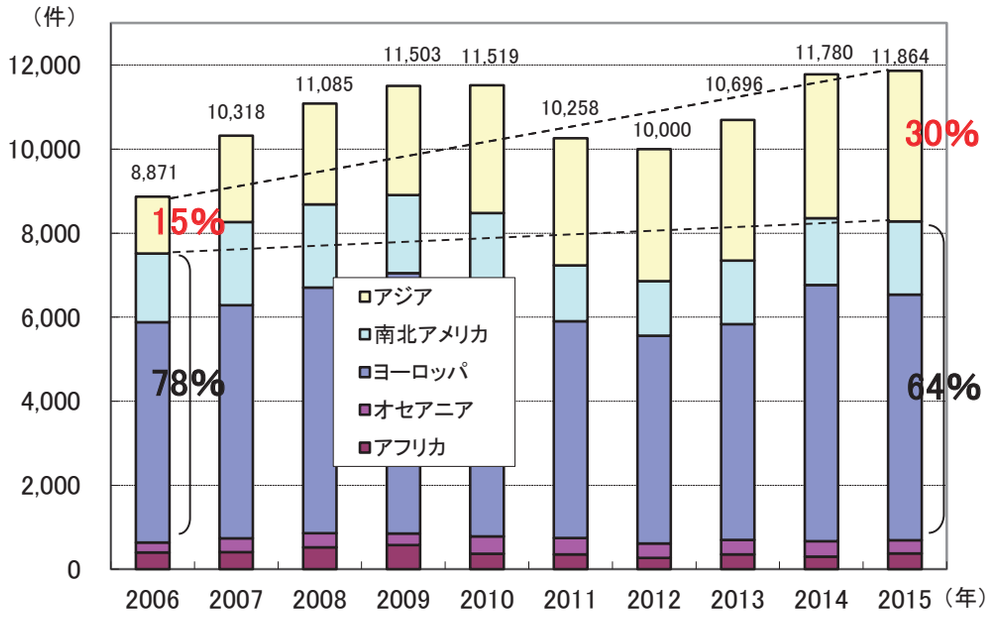
出典：「平成 28 年度観光白書」（観光庁）

（4）国際会議の開催件数の増加

国際会議はこれまで、国際本部の多くが立地する欧米での開催が過半を占めていたが、経済発展が進むアジアでのシェアがこの 10 年間で約 2 倍に拡大している。

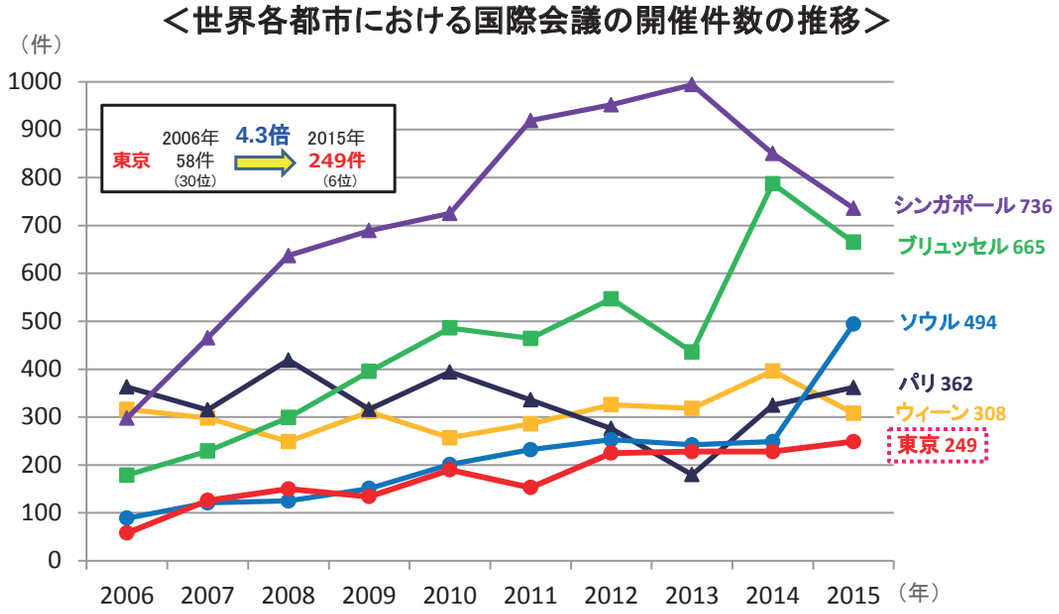
こうした中、東京での国際会議の開催件数はこの 10 年間で約 4.3 倍に増加し、東京のＭＩＣＥ開催都市としての地位は向上しているものの、依然としてシンガポールやソウルなどのアジアの競合都市に後れを取っている状況である。誘致を巡る国際的な競争に勝ち抜き、東京への更なるＭＩＣＥ誘致を進めるためには、誘致施策の充実強化が必要である。

＜国際会議の世界市場の状況＞



出典:「国際会議統計」(日本政府観光局)

＜世界各都市における国際会議の開催件数の推移＞



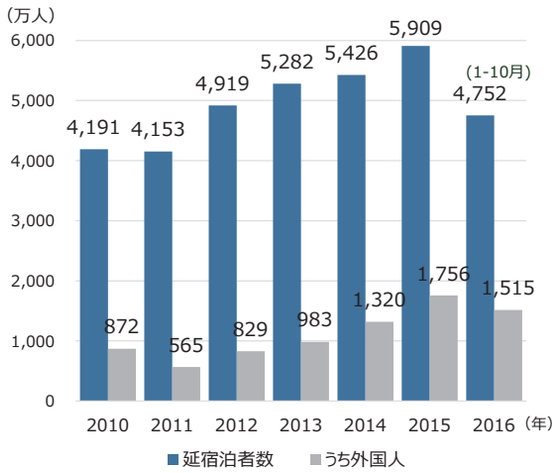
出典:「国際会議統計」(日本政府観光局)

（5）拡大する宿泊需要

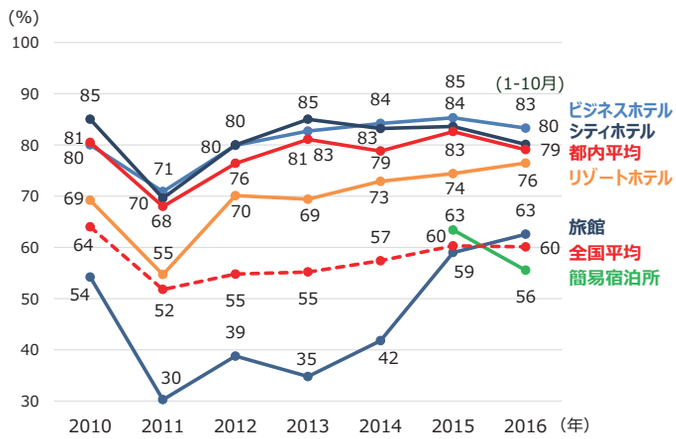
外国人宿泊者数の増加に伴い、都内の宿泊施設の客室稼働率は高水準で推移しており、2015 年の稼働率は全国平均の 60%を大幅に上回る 83%に達している。

2015 年の種類別の客室稼働率（都内）を見ると、ビジネスホテルが 85%、シティホテルが 84%と高い水準に達している一方で、旅館は 59%に留まっている。

＜都内延べ宿泊者数＞



＜都内客室稼働率＞



注：2016 年は各月の平均値を平均した数値のため参考とする。

出典：「宿泊旅行統計調査（観光庁）」

こうした状況の中、拡大する宿泊需要に対応するため、大田区は国家戦略特区（旅館業法の特例）を活用してマンション等の空室を外国人旅行者の宿泊施設として利用する取組を進めている。また、国は平成 28 年４月に規制を緩和し、現行の簡易宿所の仕組みの柔軟な運用により、一般の住宅に有料で観光客を泊めることを可能としている。今後とも民泊を巡る国の動向等については注視していくことが必要である。

【参考】民泊に関する国の動き

◇「民泊サービス」のあり方に関する検討会（平成 27 年 11 月～平成 28 年 6 月）

◇旅館業法関連法令等の改正（平成 28 年 4 月 1 日施行）

・簡易宿所の客室面積基準や設備の緩和

◇新たな法案の骨子（あり方検討会の報告書（平成 28 年 6 月 20 日））

・一定の要件（年間提供日数上限（180 日以下）など）を満たす民泊を適切な規制の下で推進できるよう類型別に規制体系を構築

◇国家戦略特区に関する動向

・平成 25 年 12 月　旅館業法の特例を措置

・平成 27 年 12 月　大田区において国家戦略特区の活用に関する条例制定

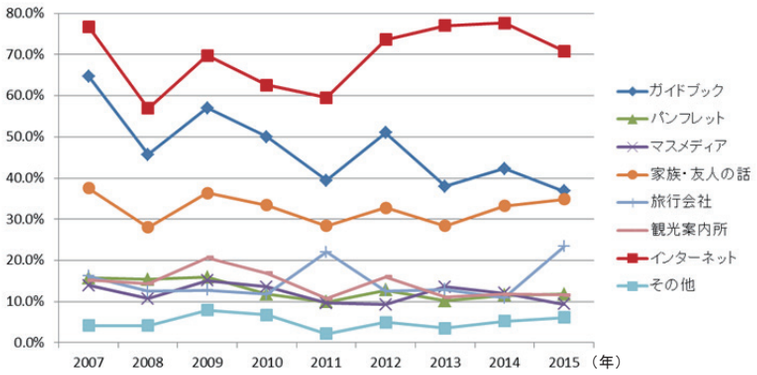
・平成 28 年 2 月　大田区において事業開始

（６）外国人旅行者の情報収集方法の変化

ＩＣＴ技術が進歩することにより、旅行中の情報収集のあり方も大きく変化している。旅行者が観光情報を収集する主な手段は、ガイドブックなどの紙媒体から、リアルタイムで情報を容易に入手できるインターネットへと移行している。口コミサイトやＳＮＳを利用した観光情報の入手のほか、宿泊場所の予約でオンラインサイトを活用する方法が普及している。

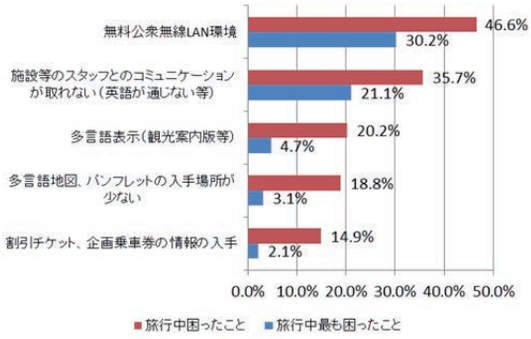
一方で、外国人旅行者に対するアンケート調査の結果を見ると、訪日旅行中に「最も困ったこと」、「困ったこと」の第一位はいずれも無料公衆無線ＬＡＮ環境となっており、外国人旅行者の滞在中の満足度を上げるためには、無料Ｗｉ－Ｆｉの整備が急務となっている。

＜訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷＞



出典:「東京都観光客数等実態調査」（東京都）

＜外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2015 年）＞

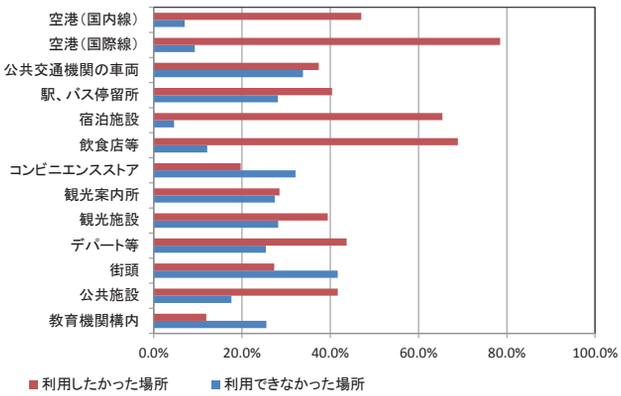


出典:「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」（総務省、観光庁）

無料Ｗｉ－Ｆｉの整備は、外国人旅行者が利用したい場所（ニーズ）との整合性を図りつつ進めることが重要であるが、街頭（歩行空間）や個々の商業店舗、教育機関の構内など対応が十分に進んでいない場所も一部存在している。

このため、これらの場所の整備を進めるとともに、使えない理由として挙げられている「利用場所がわからない」「多言語対応されていない」「認証がうまくいかない」などの要望にも応えていくことが必要となっている。

＜外国人旅行者がWi-Fiを利用したい場所、利用できなかった場所＞



＜外国人旅行者がWi-Fiを利用できなかった理由＞

	コンビニエンスストア	街頭	教育機関構内	全場所の平均
利用場所がわからなかった	20.0%	22.2%	－	16.7%
言語対応されておらず手順等を理解できなかった	36.0%	26.7%	25.0%	27.4%
接続に必要な認証がうまくいかなかった	36.0%	37.8%	41.7%	32.8%
接続に個人情報の登録を要し登録したくなかった	8.0%	11.1%	33.3%	14.1%
その他	－	4.4%	8.3%	3.2%
利用できなかった理由がわからない	16.0%	11.1%	8.3%	17.0%

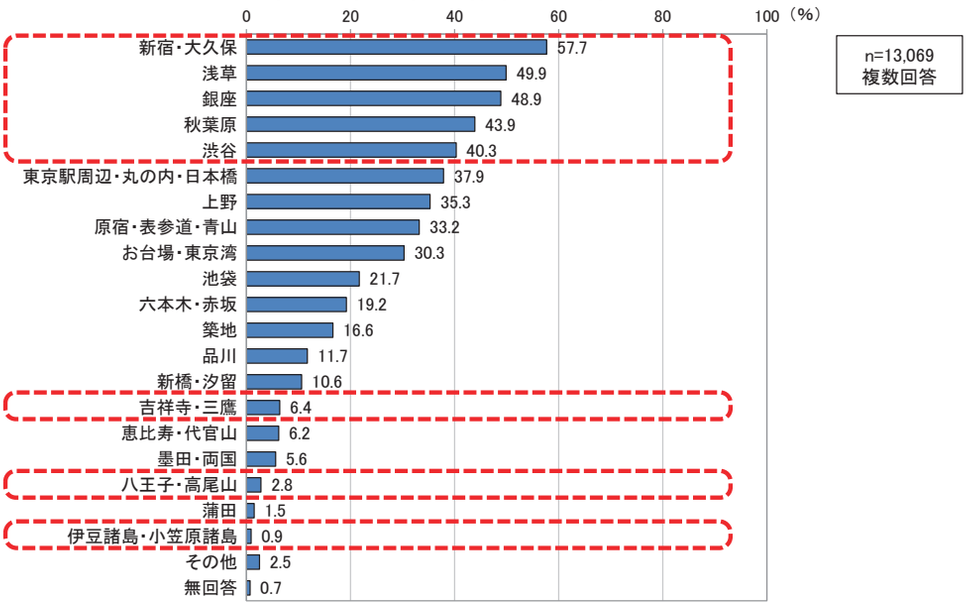
「Wi-Fi利用に係る調査（平成27年3月、総務省）」に基づき東京都で作成

（7）多摩・島しょへの送客の必要性の高まり

多摩・島しょ地域には、都心部には見られない豊かな自然や食などの観光資源があり、こうした魅力を「宝物」として活用して旅行者の誘致につなげることのできるポテンシャルを持っている。その一方、2015 年度に東京を訪れた外国人旅行者の訪問地域を見ると、新宿・大久保、浅草、銀座、秋葉原、渋谷など上位 10 位は全て区部の地域が占めており、多摩・島しょ地域への訪問割合は低い状況となっている。

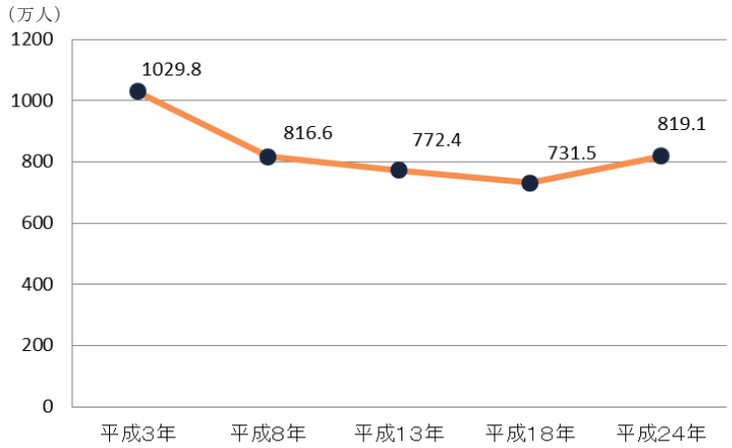
また、多摩・島しょ地域への旅行者数を見ると、訪都旅行者全体の数が大幅に増加しているなか、西多摩地域への旅行者数はこの約 10 年間でわずか 6 %の増加に留まっている。さらに、島しょ地域への旅行者数については、1973 年（昭和 48 年）をピークに長期に渡り低迷しており、依然としてピーク時の 3 割程度の旅行者数に留まっている。

＜外国人旅行者が訪問した場所＞



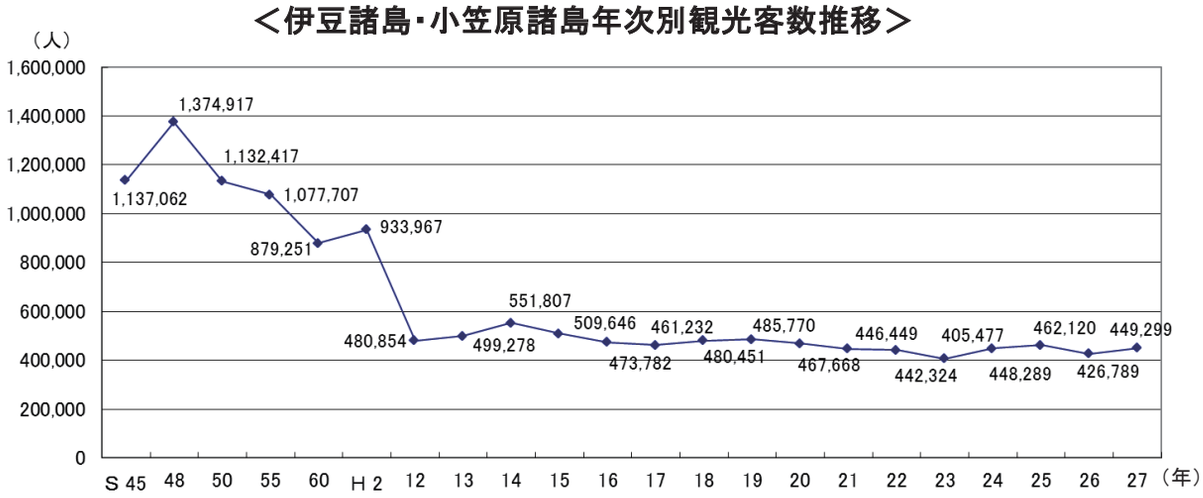
出典：平成 27 年度国別外国人旅行者行動特性調査（東京都）

＜西多摩地域の入込観光客数の推移＞



出典:「西多摩地域観光入込客調査報告書」(西多摩地域広域行政圏協議会)

＜伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移＞



出典:「伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書」(東京都)

（８）観光都市・東京としての更なる発展

アメリカの富裕層向け大手旅行雑誌「Condé Nast Traveler（コンデ・ナスト・トラベラー)」が平成 28 年 10 月に公表した「世界で最も魅力的な都市」のランキング（米国を除く）において、東京は前年の第 15 位から大幅に順位を上げて初めて第１位に選ばれた。これは、東京の観光ＰＲや外国人旅行者の受入環境の整備など、行政と民間が力を合わせて推進してきた様々な取組の成果によるものと考えられる。今後、富裕層を含めた外国人旅行者を幅広く誘致するためには、国におけるＩＲ実施法案の動向や民泊による滞在のあり方を取り決める動き等についても留意していくことが必要である。

また、日本を訪れる外国人旅行者数は年々増加しているが、海外の民間大手旅行サイト等が発表している観光都市ランキングを見ると、東京は相対的に低い状況に留まっていることがわかる。

世界最大の旅行口コミサイトのトリップアドバイザーが平成28年3月に発表した「世界の人気観光都市ランキング 2016」では、前年圏外だった東京は世界21位と順位を上げているものの、依然としてロンドンやパリ、ニューヨークなどの欧米の観光先進都市を下回っているだけでなく、同じアジア地域のハノイ（ベトナム）やバンコク（タイ）、香港（中国）等にも後れを取っている状況である。ランキング上位の都市はいずれも旅行者が満足する魅力的な観光資源を有していることが評価されている。

＜Condé Nast Traveler（コンデ・ナスト・トラベラー） Best Cities in the World＞

【読者投票ランキング 2016 年「Best Cities in the World」 上位 10 都市】

1位	東京（日本）	※15位
2位	京都（日本）	※9位
3位	フィレンツェ（イタリア）	※1位
4位	ルツェルン（スイス）	※18位
5位	サン・ミゲル・デ・アジェンデ（メキシコ）	※ランク外
6位	バンクーバー（カナダ）	※19位
7位	ビクトリア（カナダ）	※24位
8位	ザルツブルグ（オーストリア）	※12位
9位	バルセロナ（スペイン）	※14位
10位	ウィーン（オーストリア）	※3位

注：米国を除く世界各都市
※ 国名の後の数字は 2015 年の順位
出典：東京都報道発表資料

＜世界の人気観光都市ランキング 2016＞

順位	都市（国名）		
1位	ロンドン（イギリス）	13位	ドバイ（アラブ首長国連邦）
2位	イスタンブール（トルコ）	14位	サンクトペテルブルク（ロシア）
3位	マラケシュ（モロッコ）	15位	バンコク（タイ）
4位	パリ（フランス）	16位	アムステルダム（オランダ）
5位	シェム リアップ（カンボジア）	17位	ブエノスアイレス（アルゼンチン）
6位	プラハ（チェコ共和国）	18位	香港（中国）
7位	ローマ（イタリア）	19位	プラヤ デル カルメン（メキシコ）
8位	ハノイ（ベトナム）	20位	ケープタウンセントラル（南アフリカ）
9位	ニューヨーク（アメリカ）	21位	東京（日本）
10位	ウブド（インドネシア）	22位	クスコ（ペルー）
11位	バルセロナ（スペイン）	23位	カトマンズ（ネパール）
12位	リスボン（ポルトガル）	24位	シドニー（オーストラリア）
		25位	ブダペスト（ハンガリー）

出典：「トラベラーズチョイス 世界の人気観光都市ランキング 2016」（トリップアドバイザー）